

第 1 回館山市議会定例会会議録
(第 3 号)

1 昭和59年3月9日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1番 神田 守隆
3番 山中金治郎
5番 川名 正二
7番 榎本 春光
9番 福原 勤
11番 飯田 義男
13番 石井 昌治
16番 松下 正己
19番 黒川 平治
21番 吉田勇治郎
23番 伊賀 多朗
25番 五十嵐 昇
27番 安西 益男

2番 田沢 勝信
4番 日下 君敏
6番 生稲 陞
8番 小宮 利夫
10番 横溝 功
12番 石井 謀
15番 渡辺 昭夫
17番 近藤 好雄
20番 石井 武敏
22番 林 豊
24番 流山源次郎
26番 石井 正
28番 安澤 徳順

1 欠席議員 1名

14番 伊藤幸太郎

1 出席説明員

第2号に同じ

1 出席事務局職員

第1号に同じ

1 議事日程(第3号)

昭和59年3月9日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時01分

○議長(石井 正君) 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第3日の会議を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

○議長（石井 正君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

質問の方法は、昨日と同じであります。これより順次発言を願います。

11番議員飯田義男君御登壇願います。

（11番議員飯田義男君登壇）

○11番（飯田義男君） 市政刷新懇話会を代表いたしまして通告質問を行います。

その大きな第1点といたしまして、館山市の活性化推進協議会——これは仮称でありますけれども、その設置提案について、その必要性和具体的な事項について順次質問いたしますので、簡潔にして、明確な御答弁をお願いいたします。

まず第1点として、館山市の雇用問題すなわち市民の働き場所が満たされているかどうかという問題であります。現在市内には中核企業として富士ディーゼル株式会社があります。そのほかにも小規模的な幾つかの工場や金融機関あるいはサービス業としてのゴルフ場、ホテル等々平均的な職場はありますけれども、これとって特筆すべきものがないのであります。したがって、優秀な人材は他に職を求めて郷土を離れていきます。こうした傾向は地方都市の共通の悩みとは申しながら、まことに残念であります。

私は最近、いろいろな方から就職の斡旋を依頼されることが多くなりました。どこでも言われることは、館山市内には働き場所が少なくて困るということであります。何とか大きな工場や企業を誘致できないものだろうか、絶えずそういう要求をされるのであります。

そこで、私はこの際、企業の誘致運動を積極的に展開するよう要請するものであります。もちろん、この問題は諸般の事情によりそう簡単に解決する問題とは思いません。当市においてもかつて企業誘致条例がありましたが、公害と観光立市への障害を考慮したせいか、具体的な実現を見ないままに廃案となった記憶がございます。しかし、最近の産業は急速な進歩と開発が進み、ハイ・テク産業や高度な技術を駆使した先端産業で、無公害なものも数多くあります。

また最近、高度な地域振興計画も考えるようになりました。すなわちテ

クノポリス構想あるいはニューメディアの地方移転によって情報機能を高めて地域の振興を図るテレトピア構想あるいは海上都市や人工の島を建設するマリンコミュニティポリス等々、私たちが予想し得なかった地域開発計画も検討される時代になったのであります。

私は昨年、山口県の萩市、島根県の出雲市、東広島市等の行政視察をしてまいりましたが、これらの市では企業や大学の誘致を行政の重要な課題として積極的な活動をしておりました。そのほかにも館山市よりももっともっと不利、不便な山間僻地でも大企業の工場が進出し、豊かな市民の生活環境をつくり出しているところが数多く見受けられます。

当市においても、改めてこの問題について企業、大学、観光施設等幅広い見地から再検討の上、市民の要望にこたえるよう最善の努力をされることを切望するものであります。

次に、道路網の整備、改善に関する問題であります。いまや全市民がひとしく渴望している問題は、国道127号線のすみやかなる改修整備による交通渋滞の解消であります。残念ながら今日までの進行状態では地区民の不平、不満は増大するばかりであります。もちろんこの問題は、館山市だけで解決する問題ではございません。関係町村や地主の理解と協力も必要であります。最近市内の一部においてようやく工事も緒について安堵いたしておりますけれども、木更津までの貫通はまだまだ見通しのつかない現状であります。この問題は、単なる交通渋滞の緩和にとどまることなく、南房州にとって産業や観光発展の最大のネックになっているきわめて重要な問題であるだけに、すみやかなる解決が必要であります。

聞くとおれば、東京湾の横断橋も調査の段階から計画へと進展しており、遅くとも今世紀末には完成されるであろうことが予想されております。南房州地方においても、これに順応した道路網の整備、拡充が当然実施されていかなければなりません。

そこで、私はこの問題の早期解決のために次の提案をいたしたいと存じます。すなわち、いまこそ安房郡市市町村が一体となって、一大キャンペーンを展開し、地元選出全国会議員の御協力によって国会や建設省等関係機関への請願、陳情をより積極的に、しかも波状的に繰り返して行うならば、やがて誠意が通じていささかなりとも実現の時期が早まるものと思ひ

ます。市長の御見解を承りたいと思います。なお、この問題について市長が今日まで努力してきた経緯と将来の見通しについてお伺いいたします。

次に、公共下水道の問題であります。公共下水道の完成は文化福祉都市建設の基礎的要件であります。当市においても一日も早く着手していただきたいのであります。しかし、市財政の現状を勘案すると、早期実現はなかなか困難かとも推察いたします。この問題は21世紀への近代的都市建設のためにどうしてもやっておかなければならない事業であります。

全国各市においても、すでに完成している市や進行中のところが数多くございます。特に最近、国が推奨しているところの市の実態に応じた創意工夫による地域密着型の下水道事業やコストの安い新しい技術によるアイデア下水道等が逐次実施の段階に入っております。しかも、これらの事業は国や県等の補助金は80%から90%が交付されると伺いました。

当市においても、いまからこの問題について専門的なプロジェクトを組んで検討に入り、一日も早く着工を要望するものであります。なお先般、当会からの要望事項として提出したように、公共下水道の将来計画と現在行われている下水路の整備並びに末端処理の方法、位置等について十分検討の上、万遺憾のないようにいたされますよう申し添えておきます。

次に、地場産業の開発、振興についてであります。この問題については市民各層、各業界等関係機関でも絶えず創意研究がなされ、それなりの努力が払われているかと思いますが、実効をみるまでにはなかなかむずかしい問題でございます。

しかし、全国各地には、その土地や地域の実情に合った独得な産物をつくり出しているところが多くあります。たとえば新潟県の三条市の金物、燕市の洋食器とか、最近銚子市の海産物加工品等が非常にクローズアップしてまいりました。当市においてもイチゴやレタス、花等の観光との結びつきを深めつつ逐次成長しておるものはございますけれども、これが永久に定着して繁栄を続けるという保証はないのであります。

最近、バイオテクノロジーいわゆる生命工学が急速に発展して、農作物の新品種開発や受精卵の移植による乳牛や和牛の質的向上等画期的な変革の時代がまいりました。われわれは、こうした新しい時代に適応した産業発展の未来を見通して、たゆまない研鑽と努力が必要であります。

これらの問題について、市の対応と将来の計画や構想がおありでしたら、お伺いしたいと存じます。

さて次に、地域医療機関の改善、向上についてお尋ねいたします。当市民の医療は医師会を中心としたそれぞれの病院、医院によっておおむね順調に処理されていると思いますが、他市と比較して必ずしも満足すべき状態ではないと存じます。

聞くとおるところによりますと、館山市民の400人以上の患者が鴨川の亀田病院へ、100人前後の人たちが君津中央病院に入院していると伺いました。もちろん、私たちはそれぞれ近くの信頼するホームドクターをもっておおむね不自由なく施療されておりますけれども、難病や重病にかかった場合、特に急を要するときは、それなりの完備された専門医師のいる医療機関が市内にあることを希望したいのであります。

住みよい都市環境とは、医療体制の完備が重要な条件であります。かつて湊にできた医師会病院が建設されたとき、市民は大いな期待と安心感を持って歓迎したものであります。しかし、時代の推移に順応できないまま現在に至り、その後の経営内容は他に比較して残念ながら市民の期待に沿える状態ではないと思われるのであります。願わくば市長におかれましては、この問題解決に県や医師会等関係者と緊密な連絡をとりながら、医師会病院をより近代的に整備、拡充するとともに内容の充実、改善に努力されますよう切望する次第であります。

以上、細目にわたる5つの問題について要約して申し上げましたが、その一つ一つは市民の切実なる要望であります。これらの問題解決には全市民の理解と協力が必要であります。限られた乏しい財源を最も有効、適切に、しかも機能的に運営していくためには市民初め各役職員の能力や努力とともに、市民の中からも率直な意見やアイデアを吸収することによって、その効果はより大なるものがあるかと確信いたすものであります。

市長は、過去9年間香り高い文化福祉都市の建設を柱とした市政を進展させてまいりましたが、半澤市長の卓越した識見と高邁な指導力によって着実に成果を上げてこられました。し尿処理場やごみ焼却場の建設、コミュニティセンターや博物館、そして館山城周辺の文化的資産の開発等々、館山市の将来に大きな足跡を残されたのは事実であります。

しかし、素朴で平凡な市民の中には「衣食足って礼節を知る」のたとえ、まず自分たちの身近な環境を豊かにすることを優先してくれというひたすらな願いが数多く見受けられるのであります。これらの単純で率直な要望を一つ一つ誠意を持って解決していくことも、市政にとってきわめて重要な課題であろうと思うのであります。

わが国の経済が長期間に及ぶ不況の影響もあって、館山市民の経済活動も、消費も低迷を続け、商店の経営もなかなか厳しい状態が続いております。私があえて活性化推進協議会の設置を提案したのも、かかる現状から一日も早く脱却するためには全市民的な理解と協力を求めて、知識人や各業界をリードする人々の専門的ノウハウや進歩的な知識を結集して、行政への一助とするとともに、全市民参加の運動としてその輪を広げたいと思ったからであります。願わくば意図するところを御理解の上、市長の御決断を承りたいと存じます。

その次、大きな2の問題であります。館山市の行財政合理化改革審議会設置提案についてであります。

昭和59年度の一般会計予算によれば地方交付税、国庫支出金等合計では昨年に比べて4億円以上も減少しており、今後増収の可能性はないということであります。国の財政窮乏の現状を思えば今後もお減少の一途をたどることは必至であります。したがって、今後の市財政は自主財源への依存度が高まり、限られた財源をいかに効率的かつ合理的に運営していくかが重要な課題になってまいりました。

一方、経常的な人件費あるいは物件費等必然的に支出すべき経費は上昇の一途をたどるばかりであります。公共料金が上がり、受益者負担の各種料金を引き上げざるを得ない事情もわからないわけではありませんが、現行どおりの行政運営が依然として続く限り、今後もお数年を経ずして再三再四の値上げは必至であります。

しからば、今後の市町村行政はどうすべきか、どのように改善していけばいいのか、実に困難な大きな問題であります。私はこのことについて現在具体的な意見や要望は申しませんが、とにかくこれ以上市民の負担が増大することは極力抑制していく必要があると存じます。

21世紀の次代の市民のために、いまこそ確固たる将来あるべき行政の

基本的な組織づくりを模索、検討すべき時期がきていると断言してはばかりなのであります。

次に、これに関連のある行政機構の見直しについてであります。前段で申し上げたとおり、今後の市財政はいよいよ厳しい、苦しい時代が続くものと思料されますが、現状のまま推移するならば、市民への行政サービスはもちろん市が行うもろもろの事業や福祉行政も逐次低下の一途をたどることは明白であります。

さきにも申し上げました出雲市では、つとに出雲市行財政改革審議会を設置し、予想以上の成果を上げております。すなわちし尿処理やごみ収集事業、市の電算事務、給食、火葬場、駐車場、体育館の管理、市民センター等々すべて民間委託によって運営されているばかりか、市役所の業務の各課に民間会社派遣の臨時職員を配し、その数200人以上に上っているということでありました。しかもこれらの臨時職員の市民サービスはきわめて良好で、市民から喜ばれているとのことでもあります。これによって節約した財源は各種基金の蓄積に充当しており、健全な財政運営に創意工夫の並み並みならぬ努力がなされておりました。

しかし、私は出雲市の行財政政策が、これでベターであるとか、館山市も同じやり方をすべきだとは軽々に申し上げることはできません。しかしながら、当市は当市の実情に即応した手段、方法によって改善すべく鳩首研究を急ぐべき時期であろうと考えるのであります。

市長は、施政方針の中で「市民による市民のための自治」とおっしゃっております。市の行政にかかわる問題は市長の権限でありますけれども、ともすれば人情や義理のしがらみで、市長の決断をためらうこともあるであります。一日も早く市長の補助機関としての行財政合理化改革審議会を設置されて、市民各層の幅広い知識や意見を参考に、今後の市政運営のあり方について全面的な見直しをするよう御要望申し上げます。

以上、通告した質問の概要について、要点のみについて申し上げましたが、なお細部についての関連質問は、御答弁によって再質問させていただきます。

(市長半澤良一君登壇)

◎市長（半澤良一君） 飯田議員の質問にお答えをいたします。

大きな第1点、館山市活性化推進協議会——仮称の設置提案でございますが、その小さな第1点は、近代化企業誘致による市民の働き場所の提供という御質問でございますが、雇用の機会の確保を図って市民生活の安定、市民所得向上ひいては地域の活性化を促進するということは、地方自治体にとってきわめて大きな政策課題であり、また願いでもあるわけでございます。

したがって、当市にとっても長年にわたる懸案事項として種々努力をいたしているところでございますが、その障害となっている地理的な面、道路交通関係、水資源等の問題に加えて、生活意識の変化に見られる社会的条件、経済的諸条件によって、今後工業の地方分散に多くを期待することが非常にむずかしくなっております。

したがって、これからの地域産業振興は、従来の工業誘致を中心とした対応策から、地域の主体性と創意工夫を軸とする新しい地域産業起こしの発想が強く求められてきておりますので、本年早々になります、地域の特性に応じ工業に限らず各種の地場産業の振興、いわゆる自立的発展策についての調査、研究機関を内部的に設けまして、現在調査、検討を進めているところでございます。

同時にまた、現在本県が計画しております千葉新産業三角構想による上総新研究開発都市等の先端技術産業導入ビジョンについても、現在県で調査、研究が進められているところでありますが、その実現が可能となれば、当地方にとっても関連道路網の整備とあいまって、まことに明るい材料の一つでもありますので、居住環境、生産環境、自然環境の整備はもちろん地場産業の育成と振興に努めながら、雇用機会の確保に努力をいたしてまいりたいと存じております。

次に第2点、道路網の整備改良の急速実現による産業、観光開発の基礎づくりについての御質問でございますが、道路は都市の根幹施設であり、計画的かつ着実に整備を促進していくべきものと考えております。

現在、建設省によって館山バイパスが事業化されており、市内の延長5.2 kmのうち2.9 km——これは55%にあたりますが、その用地買収が済んでおり、さらにこのうち那古、正木地区の920 m、18%が工事中で

ございます。また富浦町では延長2 kmのうち500 m、25%の用地買収が済んでおります。鋸南バイパスは路線の再検討がなされ、近く発表の予定とのことでございます。

しかしながら、これらは部分的な事業であるため、都市間を連絡する重要幹線とはならないものでございます。したがって、館山市と木更津市とを連絡する全体ルートを内房バイパスとして位置づけ、現在事業化されている部分バイパスと一体となって重要幹線として機能させなければならないものでございまして、この実現により南房総のより一層の発展と産業経済の活性化が期待できるものでございます。

このような考え方の中から、昨年の10月下旬より11月上旬にかけて、建設省を初め関東地方建設局、千葉国道工事事務所及び県に対しまして、内房バイパスの路線決定と事業の早期着手を陳情したところでございます。今後も沿線市町村で組織しております国道127号バイパス建設促進協議会、国道410号並びに関連道路整備促進期成同盟会を通じまして、早期実現の働きかけをしていく所存でございます。

次に第3点、公共下水道着手による生活環境整備の御質問でございますが、健康で快適な生活を営むためには公共下水道は欠くことのできないものと考えております。公共下水道施設整備には膨大な財源と水源の確保、多額の受益者負担を要することから、関係住民の十分な理解と協力並びに国の補助を必要とする事業でございます。

しかしながら、現在国の下水道事業予算もきわめて厳しいものがございまして、昭和57年度と昭和58年度では新規採択は千葉県下ではゼロという状況にあります。諸条件の整いました時点で基本計画を検討したいと考えております。また現在進めております都市下水路の整備は、将来公共下水道の雨水排水路として整合できるよう計画をし、進めております。

次に第4点、地場産業の開発でございますが、農漁業等の地場産業の開発については、まず農業につきましては農業土地基盤の整備、中堅農家並びに後継者の育成、市場性のある商品価値の高い農産物を生産することが重要でございます。水産業につきましては漁港並びに関連施設の整備、とる漁業に加え育てる漁業の開拓が効果的であると考えております。

これらの地場産業の振興につきましては農政審議会、水産振興協議会等

の意見を聞き、技術面につきましては千葉県暖地園芸試験場、安房農業改良普及所、千葉県水産試験場等の指導を受け、さらに改善、向上をしたいと考えております。

お説のとおり、農産物もバイオテクノロジー——生命工学による品種改良の時代に入りつつありますが、若い次代を担う農業後継者で組織しております農業企画研究会、商工業関係の館山市近代化青年研究会の将来を期待してまいりたいと考えております。

次に第5点、地域医療機関の改善向上の御質問でございますが、医療施設の整備、充実につきましては、医療機関がそれぞれの機能を発揮し、医療に対する住民の満足度を高めて、健康の保持、増進のため効果的に医療の供給を図ることが重要でございます。

市内の医療施設や医師については、県平均を上回っており、医療の供給については特殊なものを除き充足されております。地域における医療の諸問題につきましては館山市保健調査会及び安房郡市を対象とした安房郡市地域医療協議会がございまして、それぞれ検討をいたしておりますので、これら関係機関の意向を受けて地域医療の改善向上に努めてまいりたいと思います。

以上、それぞれの項目についてお答えをいたしました。いずれも当市発展、振興のきわめて大きな課題でございまして、内容的にはすでに関係機関の協力を得ながら行政サイドで努力を重ねているもの、関係審議機関の中で行っているもの、あるいは民間活力の導入を必要とするもの等々、その項目がそれぞれ多岐多様にわたっておりますが、館山市活性化推進のための貴重な御提案でございますので、十分考慮しながら対処してまいりたいと存じます。

次に大きな第2点、館山市行財政合理化改革推進審議会の設置提案についてでございますが、御承知のとおり地方を取り巻く社会経済情勢、財政事情等は依然として厳しい状況にあり、国においても昨年8月臨時行政調査会の答申を受け、行財政改革を推進していくための具体的方策を決めるとともに、各地方公共団体にも推進するよう要請されているところでございます。

本市は、従来から事務事業の合理化、組織機構の見直しを行っておりま

すが、私は就任以来、基本的に財政の機動性、弾力性を堅持することに努めるとともに、課の統廃合を積極的に行い部制を採用し、組織の流動化、人員の効率的活用を図ってまいりました。

御指摘のとおり、21世紀に向かって自主的な行政を展開していくためには、館山市が自由に使い得る自主財源の強化が最大の課題でございますので、本市といたしましても財政の健全化のために自主財源の涵養を最重点に配慮し、また引き続き事務、事業の合理化、効率化を図るべく、既存の企画審議委員会を活用し、これらの要請に対処していく所存でございます。

なお、御提案につきましては、貴重な御意見として参考にさせていただきますと考えております。

以上、答弁を終わります。

○11番（飯田義男君）　ただいま、私の質問に対して一応誠意のある回答をいただいたと思っておりますけれども、まだ私には納得のいかない点もたくさんございます。

たとえば、企業の誘致運動でありますけれども、これは簡単にできる問題ではないと思います。ただ、私の特に申し上げたいのは、やはり市が現在行っておるこういった関連の仕事が市民にあまり知られておらないということであります。やはり市政というものは、市民一人一人末端に至るまでが市長の考え方、やり方に対して納得をして、理解をして初めて協力というものが生まれるだろうと思います。

単純な表現をすれば、市長はコミュニティセンターや博物館や、あるいはお城ばかりつくっておるというような単純な批判も結構ございます。私はしかし、市長のやっていることが悪いとは思っておりませんし、時々市長が自分の考え方、ビジョンによって館山市の建設を真剣におやりになるということは私は賛成であります。しかし一面、そういう素朴な市民の要求を——このように私たちは努力をしてやっておるんだということを末端まで浸透させる啓蒙宣伝というものが大いに必要である。またその誠意と努力がなされるということも必要であると思います。したがって、この問題は単純にはできないにしても、何とか一つの組織を通して市民に納得できるような方法で展開していただきたい。

なお、道路の問題でありますけれども、現在市内における交通渋滞箇所ですね、これが何カ所ぐらいあるか、なお、この渋滞地区に対して市はどのような県や国に対しての働きかけをしているか、承りたいと思います。簡潔にお願いします。

○経済部長（山田俊康君） 交通渋滞箇所ということでございますが、交通渋滞ということだけでの調査というものは実施しておりません。交通量調査というような対象では実施しておりますが、現実には交通渋滞箇所というのは——私個人の記憶で大変申しわけありませんけれども、南町の交差点を初め六軒町あるいは那古、船形、下町、汐留橋等相当の箇所にあるというふうに理解しております。

また、この交通渋滞緩和につきましては、市といたしまして交通の取り締まり機関であります警察署それから県道、国道それぞれの所管のところに連絡を密にいたしまして、交通緩和を図るようお願いしております。卑近な例では信号機の時間調整等によっても相当緩和できますのでそういったもの、それから右折車線のみでもというような緩和方法あるいは角切りの問題等々、その都度細かい連携をとりながら実施しておるのが現状でございます。

○11番（飯田義男君） たとえば、市長さん一番身近に感じていると思うんですが、飯塚薬局等の交差点あたりは時間帯によっては3回待ち、4回待ちという現況でございます。今朝も私は3回待ってきたんですが、ああいう渋滞を解決するには、単なる交通信号とか、交通規制によってどうこうという問題ではなくて、理想的にはもう1本別な線をつくって高井の方に通していくとか、八幡高井線を早く開通して別の道路を設けることによって解消する、そういう計画があるかどうかということです。

○経済部長（山田俊康君） 御指摘のように、都市計画街路が昭和40年代に一応指定してございます。そういったものにつきましても国、県の補助事業等を勘案しながら、要請して今後もやっていく予定でございます。

○11番（飯田義男君） あまり具体的なまだ目安がないようでございますけれども、市長さんさっきおっしゃっていましたが、東京湾横断橋ができた場合、非常に房州にとっては重大な問題でありますけれども、はっきり聞き取れなかったんですが、内房バイパス建設計画というような表現

をされましたが、いまの127号線のほかに縦貫道路とか、別なバイパスをつくる運動をしておられるのかどうか、もう1回明確にお答え願います。

○市長（半澤良一君） 現在、建設を進めておりますのは、あるいは計画を進めておりますのは、館山バイパス、鋸南バイパスでございます。それだけでは部分バイパスでございますので、それを早期に結んで、そうして全体的な——それを内房バイパスと、仮称でございますけれども、われわれの方で呼びまして、国及び県に計画の決定と早期実現を呼びかけているところでございます。

○11番（飯田義男君） そうすると、新たに1本ということではないということでございますけれども、いま陳情しておるバイパスは何メートルで、何車線という御予定でありますか。

○経済部長（山田俊康君） 4車線、25m幅員ということでお願いしております。

○11番（飯田義男君） この問題は、本当に市民が渴望している問題であります。万難を排してやっていただきたいと思うんですが、市長さんにもう1回最後をお願いしておきたいのは、私の提案した関係市町村が一丸となって、この際一大キャンペーンを展開するということに対してはどうお考えですか。

○市長（半澤良一君） 127号バイパスにつきましても、それから国道410号につきましても、いずれも沿線各市町村でそれぞれの促進協議会を結成をいたしております。これを通じて運動をいままで展開してまいりましたし、今後も展開していく予定でございます。

○11番（飯田義男君） 一応、現在の活動はわかるんですが、それが遅々として進まぬ、何をやっておるんだという意見があるわけですから、やはり地域住民を巻き込んだところの今後の運動、活動を展開するように御配慮願いたいと思います。

次に、公共下水道の件でございますけれども、費用の点でいろいろの問題があると思いますけれども、もしおやりになるとすると、館山市でおおむねどのぐらいかかるものでありましょうか、なお県、国の補助金等はその場合どのぐらいあるものか、ごく簡単に関係課長からひとつ。

○経済部長（山田俊康君） 下水道の実施区域——市街地のみということ

で考えますと、おおよそ20%程度になろうかと思います。一般的な事業費の積算で言いますと、大体300億程度のものが、ただこの場合に下水道網に整備されます配管2m管とか、50cm管とかいろいろな管がございますけれども、管の大きさによってそれぞれ補助率が変わっておりますので、一概に補助率が幾らだというふうには出てまいりません。実際の実施計画にのっとって管渠の大きさ等が決まりませんと、補助金額が出てこないという実情でございます。

○11番（飯田義男君） それはおわかりにならぬと思います。東広島では大体85%ということをおっしゃっております。

市長さんに、この問題についてもうぼちぼち検討の段階だろうと思えますけれども、その必要があるかどうか、市長のお考えを。

○市長（半澤良一君） 私もかねがね、公共下水道のない都市は近代都市でないというふうに就任以来考えているところでございます。早期実現を期したいと思っておりますが、現実がなかなかそれについていけない、まず都市整備、街路整備そのものを行わなければ、現在の狭い道路にそのまま公共下水道を埋めていいものかどうか、そうした基本的な問題がありますので、まず市街地整備を行って、それから後でなければいけないんじゃないかというふうに考えておりますが、また先ほど御答弁申し上げましたように膨大な経費もかかりますし、住民の負担、受益者の負担が非常に大きなものがあります。計画区域内の住民の方々のコンセンサスが得られなければできない大変困難な問題であるとは考えております。しかしいづれにしても、もうそろそろ考えなければいけない、準備をしていかなければいけない段階であることは認識しております。

○11番（飯田義男君） 地場産業の開発については、これは市だけが、あるいは関係機関だけがということではなくて、もっと積極的に先進地を見るとか、館山市独得な一つのやり方を市が示してやるとか、何か一つの検討材料をお示しになって討議をし、関係機関と話し合わないことにはどうにも進まないと思います。この問題については積極的に活動を展開していただきたいと思います。

なお、医療機関の問題、医療施設の充実でございますけれども、現在の医師会病院これは確かにいろいろとやってくれてはおりますけれども、わ

れわれにとってまだ不服の面があるんですが、市長さんこの医師会病院を
なお今後もこのままでいいとお思いになるか、もっと改善充実をする必要
があるのか、御意見を承りたい。

○市長（半澤良一君） 医療問題というのは大変むずかしい問題でござい
ますが、先ほども申し上げましたように、現在の医療は特殊なものを除い
て大体御指摘のようにホームドクター的なお医者さん方がたくさんいらっ
しゃるので、医療需要の大半は満たしているんじゃないかというふうに考
えております。高度の技術を要するものは、ある程度距離が遠くなっても、
そう遠くない距離の範囲内にそういうしかるべき医療機関があれば、それ
でいいんじゃないかというふうに考えております。

また、いまの医師会病院についての御質問でございますが、これは医師
会とタイアップいたしまして地域の保健総合診療、きわめて地域に密着し
た活発な保健活動をしてくださっておるので、非常に効果を上げておると
いうふうに理解をいたしております。なお今後どうあるべきかということ
につきましては、どうも専門家でございませんで意見は申し上げられま
せんけれども、なお医師会等の意見を聞きながら考えていきたいと思っ
ております。

○11番（飯田義男君） この問題は、またもっと詳しく将来私も研究し
てみたいと思います。

次に、活性化のやはり一部ですけれども、現在水道のないのが九重、館
野地区ということであります。現在九重地区では耕地整理をしたために地
下水がうんと低下して、ほとんど水が出なくなっているという現状のよう
でございます。したがって、これらの計画がどのようになっているのか、
なるべく早急にやらなければいかぬと思いますけれども、ごく要約してお
答え願います。

○水道課長（石井敏夫君） ただいまの御質問でございますが、水道の未
給水地域の解消というのはかねがね懸案事項でございまして、非常に大切
なことだと考えております。

九重、館野地区はおおよそ4000人の人がおるわけでございます。こ
の4000人に給水をするためには、1人1日250ℓと見ましても日1
000ℓの水が必要になるわけでございます。この水量そのものは大きな

水量ではございませんが、前々から水源調査をいたしまして、地下水の開発ができないかということで検討いたしましたが、その見込みがないということで、現在水源をダムに求めるということで地質調査等を実施しております。

したがって、給水区域を新たに拡張するというのは、水道事業の変更の認可関係が生じますので、まず前提条件としまして、その認可をいただかなければいけない、その認可を得るためには水源の確保が確実にできなければいけないというような問題もあります。

また、九重、館野地区だけを見ましても、たとえば配管施設をするにもまず10億円以上かかるのではないかと、単純に水源を見なくても莫大な経費がかかる、そのための補助、起債の関係これら資金面をどうするか、そのような前提条件がございますので、その前提条件を満たすべく現在水源開発について調査を進めておるわけでございます。そういうものが進む中で、早期に未給水地域の解消をやっていききたい。このように考えております。

○11番（飯田義男君） 九重地区、館野の人たちにとっては実に重大な問題だと思います。したがって、この問題については早急に水源を確保するよう努力されまして、何とか早い実現をするように、このことをお願いしたいと思います。なお別な時点で、この問題についてはいろいろ追求したいと思います。

それから、次の大きな2点の行政改革審議会の設置でありますけれども、これは細かく言うときりがございませんが、とにかく館山市もいろいろな料金の値上げという問題が迫っておる、このままの行財政のあり方では、いつになっても解消できる問題ではないと思います。

したがって、この問題について、表現が行政改革審議会という表現でなくともいいけれども、徹底的に現在の機構、市行財政の見直しをする意思があるかどうか、市長さんにお伺いいたします。

○市長（半澤良一君） 私は就任以来少数精鋭主義、それから企業経営の観念で市政執行にあたろうということを職員とともにやってきているわけでございます。そういう意味で、就任当時から比べますと、職員数は610名でございましたものが、いま約540名台になっているわけでござい

ます。約1割ぐらいのものを減らしております。それから中の行政事務の効率化ということでOA化も進めております。また内部組織の見直し等も行っております。県下の市の中では最も行政改革の進んでいる市だというふうに考えております。しかし、館山市という市が存在する限り行政改革といえますか、自己革新でございます、これは永久の命題でございます、常に自己革新をしなければいけないというふうに考えております。特に審議会を設けなくても、そういう基本的な方針で進んでまいりましたし、今後進んでいくつもりでおります。しかし、せっかくの御提案ございまして、出雲市の例のようなものも伺いましたので、今後御提案については貴重な御意見として拝聴いたし、検討いたしたいと思います。

○11番（飯田義男君） いま、市が行っておりますし尿処理あるいはごみの収集こういった事業も数字の上で見れば、民間委託すれば非常にコストが安い、半額でできるという現状を決して無視はできないと思います。

この問題については、もっと具体的に将来市は積極的に検討をしていたかなければならぬと思いますが、いま直ちに民間委託しろとか、しないという問題ではありませんけれども、より市民の広範囲な意見を糾合して、市長の一つの決断をすべき時期ではないかと思います。

私は、市の職員を減らすばかりでは行政改革はできないと思います。もちろんわれわれ議員を含めて将来いろいろの問題について検討しなければいかぬと思いますけれども、この問題についてはいま市長は即断はできないと思いますけれども、今後私たちも市のためにいろいろと御提案を申し上げてまいりたいと思います。

それから、最後になりましたけれども、最近幼保一元化の問題が出ております。これは7年ぐらい前に館山市でも大坂の交野市に視察に行って、もうすでに交野市は幼稚園と保育園の一元化を実現しておる、いまの時代は御主人だけが働いてもなかなか家計を潤すわけにはいかない、奥さんも働かなければいかぬ時代がまいりました。したがって、こういった観点から幼稚園と保育園が一元化することにより合理的な幼児教育と保育の一体化というものが考えられているんじゃないかと思いますが、これに対するいままでの市の行ってきた――施策をやってみてきたけれども、館山市にはそれが合うとか、合わないとかいろんなことが検討されていると思います。

ので、そういったことに対しての御意見を承りたいと思います。

◎教育長（安田豊作君） 幼保一元化の問題は、去る3月3日の衆議院予算委員会で質問がありまして、文相と厚相が答えておりますが、文部大臣は今度できる教育臨調の中で考えてもらいたいというような積極的な発言をしておりますが、厚生大臣の方は幼稚園と保育園の目的、機能が異なるんだから、いろいろむずかしい問題があるんじゃないかというような発言をしております。それだけに、この問題は理念としては非常によいけれども、現実的にはむずかしい問題があると。

同じように、いま交野市の問題が出ましたが、交野市では昭和47年の4月から発足しております。公立幼稚園という名前で幼稚園児120名、保育園児を90名ということで1園ずつ3園つくったそうです。

いま、どうなっているか電話で早速問い合わせましたところ、これは幼稚園だけですが、120名が3園ですから360名が定員でございますけれども、それが現在111名に減っていると、ですから、ある幼稚園で言うと幼稚園が32名、保育園児が21名で運営していると、交野市はどのぐらいの人口かというところ、ここより大きい6万8000の人口でございます。館山市で実施するとすると、館山市の幼児数全部収容するというような構想にはなかなかむずかしい問題があるだろう。

中身はと聞きまして、まず入園料は幼稚園の場合ですが2000円、それから保育料が5000円だそうです。保育園の保育料については国の基準の68%ということでございます。私なりに考えてみますと、幼稚園が5000円、保育園児はおそらく1万円と計算しました。幼稚園の保育時間が4時間、保育園の保育時間が8時間ですから、ちょうど合うんじゃないかと私なりに考えてみました。

それに対して、館山市としては昭和52年に——市に教育問題研究委員会というのがあります、それに諮問いたしまして答申を得ました。答えとしては、さっき申し上げたような理念としてはいいけれども、現実にはむずかしいということで、現在の館山市の対応としては公立幼稚園10、私立幼稚園1、それから保育所は公私立11あって、しかも全地区にあります。そうして希望者のすべての幼児が幼稚園と保育園に収容されているということから考えると、適正な配置じゃないかと、しかも幼稚園の場合は幼保

一元じゃなくて、幼小一貫という校舎の建築でいま進めております。大体の地区はそういうことでやっております。

あと考えられることは、教育内容の一致ということから、職員の研修を連絡し合って共同でやるということを試みかけますが、なかなかその時間は取りにくい、休みの時間にやる以外にないということで非常にむずかしいけれども進めると、最後に一番父兄が問題にしているのは、小学校入学時に幼稚園、保育園しかも公私立の卒業行事に対しての差別を持たないということは、私どもの方で徹底していま指導しております。

○ 11 番（飯田義男君） 時間がございませんので、これで私は質問を終わりたいと思いますけれども、特に市長さんをお願いしておくのは、私の申しあげました大きな2点は館山市の将来にとって非常に重要な問題であろうと思います。今後この問題については間断なく市長に御意見を申しあげてまいりたいと思いますが、ひとつ今後とも一段の決断と、それから今後の努力をお願いして私は終わります。

○議長（石井 正君） 以上で、11番議員君の質問を終わります。

次、5番議員川名正二君御登壇願います。

（5番議員川名正二君登壇）

○ 5 番（川名正二君） 私は、今次定例会に提案されております昭和59年度の当初予算案を初めとする35件の議案審議に先立ちまして、さきに通告申しあげました5点につきまして御質問をいたすものでございます。半澤市長には率直、簡明な御答弁を賜りますよう要望いたしまして、以下質問に入ります。

まず質問の第1点は、昭和59年度予算案に盛られております商工観光費につきましてお伺いいたします。市長は、去る2日の当議会の開会にあたり施政方針をお述べになられました中で、予算作成にあたり「地域振興を目指した産業の基盤づくり」を館山市政の重要施策の一つとして59年度の予算を編成されたと強調されたのであります。

私は、財政の確立こそ館山市政の最大の急務である考えるものであります。財政の確立ができて初めて快適な生活の環境づくり、健康で心の通う福祉社会づくり、活力ある教育文化の環境づくり等ができるものと思い、まことに当を得た施策であり、敬意を表するものであります。

そこで、当初予算書だけを見ますと、商工観光費は1億3647万9000円であります。予算総額に対する割合は1.4%に過ぎません。同じ産業である農林水産業費の構成比率を見ますと6.1%、5億7900万円を超えております。土木費は15.2%にも上っております。商工費はこれらに比べますと、予算額の構成比率がきわめて少ないことがおわかりいただけると思うわけでございます。しかも対前年比を見ましても、58年度当初予算額が2億3000万余り、9300万円の減額となっております。

市長は「産業の基盤づくり」を標榜しておられますが、少なくとも予算を見る限りにおきましては全く裏腹であろうと言わざるを得ないような気がしてならないのであります。この点につきまして市長の御所見を賜りたいのであります。

第2点は、私は館山市の主要産業を考え、大別いたしますと、農林業、水産業、商工観光の3つに分類できると思います。戦後、政府は国策として農林水産業に対し大きな保護政策をとってまいりましたことは、いまさら申し上げることでありませんし、当初の予算書を見ましても明らかに予算が多い、それはそれで結構でございますが、しかし館山市の今後の方向を考えますときに、私は経済振興の確立のためには何といたっても商工観光の育成に抜本的な、思い切った施策が必要ではなかろうかと思うのであります。これに対する市長の御見解をお伺いいたします。あわせて、参考のために農林業、水産業、商工観光業の3つの分野の年間の売上高あるいは水揚げ高をお示しいただきたい。年度は57年度になろうと思います。

第3点は、館山市内の13にわたります商業会の生の声を館山市政の中に汲み上げて、これを生かすことが必要ではなかろうかと考えるものであります。これに対する市長の率直なる御所見を賜りたいのでございます。

現在、館山市は商業会全体の問題として大型店出店計画により大ゆれにゆれていることは否定できない事実であることは申し上げるまでもありません。この問題は商業活動調整協議会によって慎重なる審議が進められているところであります。それはともかくといたしまして、館山市の商店街は自己の商業のあり方や見直し等を考えなければならない時期にきていると思うものであります。

当局も、商工会議所と連携し、また市の諮問機関である館山市近代化青年研究会を通じ商工観光振興を推進されておりますことは承知はしておりますが、狭い市内であっても地域の差またその他いろいろな条件が異なっておりますので、商業地域の活性化のために直接13の商業会個々に対して何らかの行政指導があってもしかるべきと考えます。この点に関する当局の御見解を賜りたいと思います。

そして、市の行政指導と商業会の生の声を調整し、整合することが急務であろうと考えますが、こういった方針を立てられる御用意があるかどうかにつきましても、あわせてお伺いいたすものであります。私はこの行政指導が一つの起爆剤となって商業会の活性化を呼び起こすものと期待をするものであります。

第4点であります、来年度当初予算案の中で、自主財源であります市税収入を全体の42.6%、約40億8500万を見込んでおりますが、健全財政確立を期すためにもますます自主財源の増加を図っていかねばならないと思います。

そこで、現在市内の宅地課税評価価額を高度商業地区、普通商業地区、高級住宅地区、村落地区に分けまして、平均価額及び最高価額をお示し願いたいと思います。

第5点の最後の質問であります、館山駅をまたぐ東西の歩道橋建設についてお伺いいたしたいと思います。館山駅西口開発に伴い、歩道橋の建設に対する声が再燃してまいっておりますが、昨今の現況にかんがみまして、市長はどのように対処せられるおつもりか、御所見を賜りたいのであります。

この問題は、去る56年6月に東西歩道橋建設協議会により当議会に請願書が提出され、満場一致で採択されております。これを受けまして有識者間より早期実現を望む声が持ち上がってきているのであります。市当局は駅舎の改築及び西口開設を待つ姿勢ではなく、この問題に対処されるおつもりはないか、お伺いしたいのであります。この問題は東西の開発の上でも非常に大きな関心事でもありますので、よろしくお願い申し上げます。

以上、当面する市政の重要問題につきまして申し上げましたが、御答弁により再質問をいたします。よろしくお願いいたします。

(市長半澤良一君登壇)

○市長(半澤良一君) 川名議員の御質問にお答えをいたします。

第1点、来年度予算に占める商工費が過少である点について市の見解を問うという御質問でございますが、御指摘のとおり商工費の総予算額に占める割合は1.4%であります。昭和58年度におきましては県下28市の平均割合は1.7%で、館山市は2.2%でございました。

59年度において予算額が下回った原因は、スポーツの里テニスコート建設補助金9890万円の減によるものでございます。御承知のとおり商工振興のための予算は商工費のみではなく、たとえば商業環境整備事業である土木費都市計画費中の都市再開発事業、また市街地内の道路整備事業も商工振興予算であると考えらるべきであると思います。このように予算の編成上、目的別に区分されておりますので、御理解をいただきたいと思います。

次に第2点、商工観光業の抜本的振興策についての御質問でございますが、まず各産業における年間の売上高について申し上げます。昭和57年の千葉統計事務所の調査によりますと、農林業の粗生産額は64億円、港勢調査に基づく水産業の水揚げ高は26億円、57年6月の商業統計調査における年間販売額は卸売が581億円、小売が616億円でございますので、合計いたしますと1197億円、57年12月の工業統計調査によります製造品出荷額は26.6億円で、商工業合わせて1463億円の年間販売額となっております。この数値が示しますように、本市の産業の基盤を支えてまいりました商工業の占めるウェイトは大きなものがあるかと存じます。市といたしましては、モデル商店街指定事業の推進と都市再開発による快適な都市基盤の整備をもあわせ、関係団体と協力して民間活力の活性化を図りながら商工観光業の育成に配慮しているところでございます。

第3点、商業会の意見と市の行政指導との整合についてという御質問でございますが、館山市内13の商業会の生の声を市政に反映させ、各商業会に対する市の行政指導を行うべきではないかという御質問の趣旨に承りましたが、低経済成長による消費需要の伸び悩み等に伴い商業者の近代化が求められている中で、個々の商業会よりそれぞれの商業地域の実情に即した商店街近代化づくりの声が上がってまいり、商業会みずからの力で打

開しようとする盛り上がりを期待するものでございます。

市といたしましても、消費者ニーズに適応した魅力ある商業集積を考えながら、そのような機運にある商業会については積極的にこたえ、関係団体との連携を密にしながら商業の活性化を図ってまいり所存でございます。

第4点、市税における商工観光業の占める割合についてという御質問でございますが、高度商業地区の1㎡当たりの平均価格は9万2463円、最高価格は12万8000円、普通商業地区平均価格2万9690円、最高価格7万5700円、高級住宅地区平均価格1万6918円、最高価格2万7600円、村落地区平均価格2740円、最高価格4900円でございます。

第5点、館山駅の東西歩道橋の建設についての御質問でございますが、館山駅周辺市街地整備計画の中で西口開設、駅舎改築問題を含めて総合的に検討しておるところでございます。基本的には東西両広場を連絡すべく橋上駅または自由通路を西口地区土地区画整理事業により整備される広場、道路の完成時には利用できるよう国鉄当局を初め関係当局に働きかけており、今後もこの方針で話し合いを継続していく考えでございます。

以上、答弁を終わります。

○5番（川名正二君） ただいま、御答弁を賜りましたが、何点か御質問または御要望しておきたいことがありますので、よろしく願いいたします。

第1点の御答弁の中で、予算の減額は58年度のスポーツの里づくりに出した補助金9800万円分が減であるというようなお答えでございましたが、しかし一つの事業が終わったからといって、次の年度にはひと休みということではなく、やはり産業基盤の確立の上からも長期的な思い切った施策が今後必要であろうと思うのでありますが、これについてはいかがお考えでございましょうか。

○経済部長（山田俊康君） 市長からお答え申し上げましたように、予算そのものが目的別に編成されておりますので、一つの科目だけでとらえるということではなく、全体的に予算の中でとらえていただきたいというふうに考えております。事業そのものが終わりますと、当然その事業関係の予算は減となるわけです。一つの例を挙げますと、学校建設で申しますと、

大きな学校を建て終わればやはりその金額は減るわけでございますので、全体的にお考えいただきたい。このように考えます。

◎5番(川名正二君) ひとつ今後ともよろしくお願ひしたいと思います。第1点の中で、都市再開発事業費、道路整備事業費も商業振興予算であるということにつきましては御了解いたします。

その次に、第3点目の御答弁であります。地域商業会に対しまして積極的に対処し、活性化を図っていくとの御答弁をいただきましたので、ぜひそのようにお願いをしたいと思います。

例を申し上げますと、館山振興会を見ましても、よき指導者に恵まれておりましても過去、近代化、商業の見直しをいかにすべきかということではいろいろ委員会をつくっては解散というような繰り返しがあつた時期がありました。しかし、ここ4、5年当局の御指導を直接いただくようになってからは急速に進展し、会員の理解も得られるようになってまいつたわけでございます。そういった例もございますので、やはり個々の商業会独自で当たることも重要なことだと思ひます。また商業会といたしましても積極的に取り組まなくてはならない問題でありますので——また行政指導が一つの起爆剤となって各自の商業会が活動が活発になればなお結構なことだと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思います。

それから、第2点と第4点についてであります。私がお聞きした根本は、館山市の地場産業である商工観光に対して、より以上の御理解を賜りたいためにあえて数字を並べて御答弁をいただいたわけでありまふ。はっきり数字にもあらわれておるとおり、商業地域は商業地域らしく、より以上活性化を図っていかなければならない。これが館山市の大きな財産でもあらうと思ひます。この質問につきましては御答弁で御了解いたします。

最後の質問であります。歩道橋についてであります。答弁によりまふと、駅舎の改築、西口の開設をあわせて検討しておりますが、西口の広場または道路の完成にあわせて利用できるようにするとのことでありまふが、駅舎改築、西口開設を場合によっては別に考へて、歩道橋をある程度優先させてもいいというふうに解釈してもよろしいわけですか。

◎経済部長(山田俊康君) 市長からお答え申し上げましたように、東西の両広場を連絡する橋上駅または自由通路ということでございます。あく

までも東西の広場を連絡するということが前提ということでございます。

○5番（川名正二君） それは広場の開設ができたときには、この利用をするようにするというのでありますので、この完成時といいますか、歩道橋は広場に当然接続するわけでありますので、広場の区画整理の決定時には歩道橋の青写真等も当然できていなければならないと思うんですが、広場の完成時にはすでに利用ができるようにしたいというお考えでありますので、その区画整理の決定時期はいつ頃になるのか、またいつ頃を予定しているのか、お答え願います。

○経済部長（山田俊康君） 現在、西口の区画整理に関しましては地元の理解を得べく——地元におきましては2つの協議会がつくられまして、協議会において理解を進めているわけでございます。

市の計画は、昭和60年には都市計画決定、そして事業認可という方向で、現在その作業を進めているところでございます。

○5番（川名正二君） 大変大きな意味を持っている問題でありますので、なるべく早い時期にお願いしたいというふうに思います。

それから、相当前ではありますが、歩道橋問題が起きました時期には、駅舎改築にあわせて考えておったわけでありまして、私当時間きましたところによりますと、この歩道橋、駅舎に関しては相当地元に負担金が課せられるというふうに聞いておったわけでございますが、歩道橋だけということも考えておるということでございますので、歩道橋だけを建設する場合、負担金はどうなるのか、その点についてちょっとお伺いしたいと思います。負担金にかかるのかどうか。

○経済部長（山田俊康君） 東西の自由通路のみでどのぐらいかということでございますが、自由通路につきましては、館山駅の現実の問題として計算したものがまだございません。事例といたしましては、昭和54年に東金駅でつくっておりますものが1億5000万、57年の銚子駅が2億8000万、勝浦駅が——この場合には橋上駅舎を含んでおりますが4億9000万というような状況でございます。

館山駅の場合は、当然車線部分が長いので相当の金額が必要になろうかというふうに理解をしていますが、事例の中で、当然国鉄はどの程度負担したかという問題も出てまいりますけれども、国鉄が負担したのは、勝浦

が橋上駅の関係で負担しております。ちょっと内訳はわかりませんが、銚子と東金駅は地元負担ということでございます。東金の場合は区画整理組合から1億円の寄附があって、残り5000万を市で負担した、銚子駅の場合にも地元負担ということでございます。

○5番（川名正二君） 自由通路ということで考えた場合、地元負担——住民に相当負担をかけるということもどうかと思うんですけれども、そういった問題につきましては、また御検討願いたいと思いますし、またその時期にまいりましたら御質問なり、させていただきたいと思います。

以上で、質問を終わりますが、歩道橋問題に関しましては、今後の館山市の東西の開発、また観光、商業の発展に大きな意味がありますので、早期実現に向かって当局の御努力を強く要望しておきます。

以上で、終わります。

○議長（石井 正君） 以上で、5番議員君の質問を終わります。

以上で、通告者による一般質問を終わります。

散 会 午前11時30分

○議長（石井 正君） 本日の会議はこれにて散会といたします。次回は3月12日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議といたします。

この際申し上げます。一般議案及び補正予算案に対する質疑通告の締め切りは3月10日正午まで、昭和59年度各会計予算案の質疑通告の締め切りは3月12日正午まででありますので申し添えます。

○本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問